2023年度

（令和5年度）

事業報告書

自　2023年4月　1日

至　2024年3月31日

公益財団法人ユニジャパン

２０２３年度 事業報告

Ⅰ．［事業の状況］

１．国際映画祭事業

名　　称：　第 36 回東京国際映画祭
主　　催：　公益財団法人ユニジャパン
　　（第 36 回東京国際映画祭実行委員会）
共　　催：　経済産業省
　　国際交流基金（アジア映画交流事業）
　　東京都（コンペティション部門、ユース部門）
期　　間：　令和 5 年 10 月 23 日（月）～令和 5 年 11 月 1 日（水）
企　　画：　コンペティション、アジアの未来、ガラ・セレクション、
　　ワールド・フォーカス、NIPPON CINEMA NOW、日本映画クラシックス、ユース、アニメーション、TIFF シリーズ、黒澤明賞授賞式、黒澤明の愛した映画、TIFF ティーンズ映画教室 2023、国際交流基金×東京国際映画祭 co-present 交流ラウンジ、Amazon Prime Video テイクワン賞　他
会　　場：　東京ミッドタウン日比谷、東京宝塚劇場、TOHO シネマズ日比谷 SC12 をメイン会場とし、その他都内劇場及び施設・ホールを使用
後　　援：　総務省／外務省／観光庁／千代田区/中央区／(独)日本貿易振興機構／
　　国立映画アーカイブ／(一社)日本経済団体連合会／東京商工会議所／
　　(一社)日本映画製作者連盟／(一社)映画産業団体連合会／
　　(一社)外国映画輸入配給協会／モーション･ピクチャー･アソシエーション(MPA)
　　／全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／
　　特定非営利活動法人映像産業振興機構／(一社)日本映像ソフト協会／
　　(公財)角川文化振興財団／(一財)デジタルコンテンツ協会／
　　(一社)デジタルメディア協会
助　　成：　文化庁文化芸術振興費補助金（映画祭支援事業）
プレミアムパートナー：日本コカ・コーラ株式会社／amazon プライムビデオ／
　　株式会社カプコン
パートナー　：三井不動産株式会社／三菱地所株式会社／株式会社ウィーンの森／
　　ドルビージャパン株式会社
スポンサー　：株式会社バンダイナムコホールディングス／大和ハウス工業株式会社／
　　株式会社帝国ホテル／株式会社 IMAGICA GROUP／
　　株式会社スター・チャンネル／キリンホールディングス株式会社／
　　株式会社 GEAR／住友商事株式会社／ダイソン株式会社／
　　株式会社リズメディア／株式会社大和証券グループ
トランスポートパートナー：東京地下鉄株式会社／東京都交通局／トヨタ自動車株式会社

コーポレートパートナー：松竹株式会社／東宝株式会社／東映株式会社／株式会社 KADOKAWA／
日活株式会社／一般社団法人映画演劇文化協会／
一般社団法人日比谷エリアマネジメント／
東京ミッドタウンマネジメント株式会社／
DMO 東京丸の内／Ligare 大丸有エリアマネジメント協会
メディアパートナー　：株式会社 J-WAVE／株式会社 WOWOW／日本映画専門チャンネル／
LINE 株式会社／株式会社つみき／株式会社ムービーウォーカー／
ぴあ株式会社／株式会社 ニッポン放送／Variety／
Hollywood Reporter／NTT スマートコネクト株式会社
フェスティバルサポーター：株式会社トムス・エンタテインメント／全日本空輸株式会社／
株式会社クララオンライン／株式会社レントシーバー

［開 催 概 要］

第 36 回東京国際映画祭は、令和 5 年 10 月 23 日(月)から 11 月 1 日(水)までの 10 日間、日比谷・有楽町・丸の内・銀座地区にて開催された。

日比谷を中心とした開催地に移転して 4 年目の本年もその取り組み内容に対しては慎重な検討を重ねての準備となった。公的な支援は例年並み、或いは、それ以上を獲得する事が出来、また、民間協賛社による協賛金も大幅に取り戻しており、全体予算はほぼ平常時に近い規模まで戻すことができた。

第 36 回東京国際映画祭の目標として、①上映会場の拡大、②上映本数の拡大、③海外ゲスト招へいの拡大を図った。また、今年は小津安二郎監督の生誕 120 年を大きな柱とし、その代表作である『東京物語』にオマージュを捧げるというイメージで、昨年に続きコシノジュンコ氏に映画祭のビジュアルデザインを依頼した。

上映会場に関しては、昨年と同様 TOHO シネマズ日比谷 SC12、丸の内 TOEI①、丸の内ピカデリー2 を活用、また、ヒューリックホール東京を新たに追加で押さえ、本数の増に対応する環境を整えた。また、引き続きオープニングセレモニー会場として東京宝塚劇場を使用し、三菱地所の協力により「有楽町 micro FOOD&IDEA MARKET」を活用、千代田区の共催によりプレイベントである千代田シネマセレクションの会場としてベルサール神田、ベルサール半蔵門も利用するなど、より広域での映画祭開催が実現できた。

総上映本数については、昨年の 174 本から 219 本に大きく増やすことができた（45 本増）。

海外ゲストの招へいについては、前年度の 104 名から 2,174 人（内訳：審査員関係 11 人、作品ゲスト 208 人、映画祭関係者ほか 148 人、海外プレス 432 人、TIFFCOM1,375 人）と前年対比で大幅に増やすことができた。

今年も昨年に引き続き日比谷でのオープニングレッドカーペットを三井不動産㈱、東宝㈱、日比谷エリアマネジメント、東京宝塚劇場、千代田区、丸の内警察の多大なるご協力のもとに実施した。今年はレッドカーペット会場を取り囲む目隠し幕を撤廃し、「開かれた映画祭」の開催を目指した。作品ゲストの皆様も多数参加いただき、カーペットを十分に楽しんでいただけたものと思われる。そして、オープニングセレモニーを昨年に引き続き東京宝塚劇場で実施した。オープニングアクトでは、世界的なヴァイオリニストである川合郁子氏が出演。西村康稔経済産業大臣

による来賓挨拶、中国の巨匠であるチャン・イーモウ監督への特別功労賞の授与、ヴィム・ヴェンダース審査委員長以下のコンペティション国際審査委員の紹介、及び、ヴェンダース監督によるオープニング作品『PERFECT DAYS』関係者による舞台挨拶が行われた。

その後、『PERFECT DAYS』は TOHO シネマズ日比谷スクリーン 12、13、TOHO シネマズシャンテ 2 にて上映。コロナ時に中止していたオープニングパーティーを 4 年振りに東京會舘にて開催し、都倉俊一文化庁長官、伊藤信太郎環境大臣、本年度映画祭フェスティバル・ナビゲーターである映画監督の安藤桃子氏が登壇した。

また、昨年 14 年ぶりに復活させた「黒澤明賞」を今年度も実施。この賞を掲げる事で、引き続き世界の映画界に対し強く「日本（東京）」をアピールする事が出来た。（詳細は、自主企画（１５）を参照のこと）

その他、先述したように、会期中は、上映会場、イベント会場も拡張し、国内外の映画祭関係者、プレスの皆様、一般のお客様が様々な形で交流できる場を創出する事が出来た。

最終日、クロージングセレモニーは、TOHO シネマズ日比谷 SC12、13 で実施。前年度に引き続き海外から参加の作品ゲストも多数呼ぶことができ、受賞者へのリアルな贈賞を行った

その結果、今映画祭の自主企画は 53 企画（うちリアル 38 企画、オンライン 15 企画）で、リアルな動員数は 143,498 人（前年対比 130%）、オンライン動員数は 350,641 人となった。

[自主企画]

（１）コンペティション部門　（共催：東京都）

本映画祭の主要部門として映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際交流に寄与することを目的に、2023 年 1 月以降に完成した長編作品を世界各国から公募、選定コミッティーによる討議の後、15 作品が選定された。

各作品の上映時、来場したゲストによる舞台挨拶、及び、Q&A を実施し、観客との交流を深めることが出来た。

[国際審査委員]

審査委員長：ヴィム・ヴェンダース（映画監督）

審査委員：アルベルト・セラ（映画監督）

國實瑞惠（プロデューサー）

チャン・ティ・ビック・ゴック（プロデューサー）

チャオ・タオ（俳優／プロデューサー）

[各賞の授賞結果]

・東京グランプリ／東京都知事賞

『雪豹』（監督：ペマ・ツェテン）　賞金：300 万円

・審査員特別賞　『タタミ』（監督：ザル・アミール、ガイ・ナッティヴ）賞金：50 万円

・最優秀監督賞　岸 善幸『正欲』　賞金：30 万円

・最優秀女優賞　ザル・アミール『タタミ』　賞金：30 万円

・最優秀男優賞　ヤスナ・ミルターマスブ『ロクサナ』　賞金：30 万円

・最優秀芸術貢献賞『ロングショット』（監督：ガオ・ポン）　賞金：30 万円

・観客賞　『正欲』（監督：岸 善幸）※観客による投票で最高点

［上映作品数］　15 作品　［動員数］12,615 人

（２）アジアの未来部門　（共催：国際交流基金アジアセンター）

日本を含むアジアで作られた、新鋭監督の 3 本目までの長編作品を対象にした、アジア・コンペティション部門。今年、日本映画は 2 作品を選出、全てワールドプレミア作品である計 10 作品より、最優秀作品賞が選出された。

［審査委員］

マーク・ノーネス（ミシガン大学教授／アジア映画研究家）

レイモンド・レッド（映画監督）

武井みゆき（配給会社ムヴィオラ代表）

［アジアの未来　作品賞］

・『マリア』（監督：メヘディ・アスガリ・アズガディ）　賞金：100 万円

［上映作品数］　10 作品　［動員数］　3,541 人

（３）ガラ・セレクション部門

世界の映画を代表する日本公開前の最新作（公開未定作品含む）をプレミア上映する部門。本数も厳選し、計 16 作品となった。（オープニング作品、クロージング作品含む）

［上映作品数］　16 作品　［動員数］　10,796 人

（４）ワールド・フォーカス部門

世界の国際映画祭で話題になった作品で、日本国内の上映予定がない作品をいち早く紹介する部門。今年はラテンビート映画祭との共催による 5 作品や台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター共催の台湾電影ルネッサンス 2023、アジアン・シネラマ-香港フォーカス、生誕 100 周年記念フランコ・ゼフィレッリ特集、バスク映画特集も上映。

［上映作品数］　33 作品　［動員数］　14,210 人

（５）NIPPON CINEMA NOW 部門

今年の日本映画を代表する新作セレクションを上映。特に、海外に紹介されるべき日本映画という観点を重視。また、城定秀夫監督の代表作 4 作品の特集上映も行った。

［上映作品数］　11 作品　［動員数］　4,679 人

（６）アニメーション部門

今年も藤津亮太氏にプログラミングアドバイザーを務めていただき、新たなコンセプトで海外の話題作や国内の最新作を紹介。更に、シンポジウムや登壇イベントを実施し、映画祭全体の盛り上げに大きく貢献した。

［上映作品数］　12 作品　［動員数］　2,176 人

（７）日本映画クラシックス部門

日本の名作のデジタル修復版を上映する部門。本年度は、山本薩夫監督の『白い巨塔』4K デジ

タル修復版と、代表作『忍びの者』を上映。また、サイレント時代の傑作『雄呂血』の 4K デジタル修復版を活弁つきで上映した。

［上映作品数］　3 作品　　［動員数］　307 人

（８）ユース部門

日本の若い映画ファンの創出、映画クリエイターの育成を目的とした部門。小学生までが対象の「TIFF チルドレン」では、恒例となった山崎バニラ氏による活弁イベント「山崎バニラの活弁小絵巻 2023」を上映。中高生が対象の「TIFF ティーンズ」では 3 プログラムを上映。また、「TIFF ティーンズ映画教室 2023」では、リアルなワークショップをアーツ千代田 3331 にて実施。今年は真利子哲也監督を講師に迎え、3 チーム計 21 名の中高生の参加を得た。

［上映作品数］　10 作品　　［動員数］　1,265 人

（９）TIFF シリーズ部門

一昨年より新設されたシリーズものに特化した部門。TV シリーズや配信を前提としたシリーズものから選定。計 4 作品を上映した。

［上映作品数］　4 作品　　［動員数］　1,044 人

（１０）国際交流基金×東京国際映画祭 co-present　交流ラウンジ

4 年目を迎えた交流ラウンジでは、世界各国・地域を代表する映画人のトークセッションやマスタークラスを実施。また、アジアで映画を学ぶ学生を招き、是枝裕和監督によるマスタークラスを行った。

［企画内容］

10 月 24 日（火）　　トラン・アン・ユン監督 マスタークラス

10 月 25 日（水）　　チャン・イーモウ監督 マスタークラス

10 月 29 日（日）　　Nippon Cinema Now トークセッション「私たちの映画の作り方」

10 月 30 日（月）　　山田洋次監督×グー・シャオガン監督 対談

10 月 31 日（火）　　ヤンヨンヒ監督×モーリー・スリヤ監督 対談

［企画数］　5 企画　　［動員数］　1,002 人　　［オンライン視聴者数］　2,594 人

別会場の企画（BASEQ）

10 月 26 日（木）　　アジア映画学生交流 マスタークラス

講師：是枝裕和（映画監督）　モデレーター：土田 環（早稲田大学専任講師）

［動員数］142 人　　［オンライン視聴者数］375 人

（１１）Amazon Prime Video　テイクワン賞

東京国際映画祭では、更なる才能の発掘を目指して、国内外で優れたオリジナル作品を制作し、多様な映像作品を配信する Amazon Prime Video の協賛を得て、「Amazon Prime Video テイクワン賞」を今年も実施。これまでに長編商業映画の監督・脚本・プロデューサー経験のない日本在住映画作家の 15 分以内の短編作品を対象とし、募集。審査委員による厳正な審査の上、受賞作品を

決定。受賞者には、Amazon から賞金 100 万円が贈られるほか、Amazon スタジオと長編映画の製作を模索し、脚本開発に取り組む機会も提供される。

［審査委員長］

行定勲（映画監督/演劇演出家）

［審査委員］

玉城ティナ（俳優）

芦澤明子（撮影監督）

森重 晃（プロデューサー）

戸石紀子（Amazon スタジオ プロデューサー）

［受賞結果］

・Amazon Prime Video テイクワン賞

ヤン・リーピン　『Gone with the Wind』　　賞金：100 万円

・Amazon Prime Video テイクワン賞 審査委員特別賞

安村栄美　『ビー・プリペアード』　　賞金：50 万円

（１２）エシカル・フィルム賞

今回新設された本賞は、本年度、全エントリー作品の新作の中から「人や社会・環境を思いやる考え方・行動」と定義した「エシカル」の基本理念に合致する優れた作品を選出。賞金 30 万円とトロフィーが授与された。

［審査委員］水野誠一（a’un エシカル百科店 スーパーバイザー、元西武百貨店社長）、坂口真生（a’un エシカル百科店 エシカルプロデューサー）、工藤里紗（テレビ東京 制作局 クリエイティブ制作チーム チーフプロデューサー）、渡辺一正（住友商事執行役員・メディア事業本部長）

［受賞者］『20000 種のハチ（仮題）』（監督：エスティバリス・ウレソラ・ソラグレン）

（１３）小津安二郎生誕 120 年記念企画“SHOULDERS OF GIANTS”

巨匠・小津安二郎監督の生誕 120 年を記念して特集上映を行うとともに、記念シンポジウム“SHOULDERS OF GIANTS”を開催し、ヴィム・ヴェンダース（映画監督）、黒沢 清（映画監督）、ケリー・ライカート（映画監督）、ジャ・ジャンクー（映画監督）が登壇した。また、関連企画として「音語り」、及び、「J-WAVE 公開収録イベント」も実施

特集上映　　［上映作品数］　16 作品　　［動員数］　1,727 人

記念シンポジウム［上映作品数］　1 作品　　［動員数］　475 人

音語り［動員数］400 人　　J-WAVE 公開収録イベント［動員数］300 人

（１４）第 36 回東京国際映画祭 特別功労賞

永年にわたり国内外を含めた映画界への貢献が目覚ましい方を顕彰した。

［受賞者］　チャン・イーモウ（映画監督）

（１５）黒澤明賞授賞式、及び、「黒澤明の愛した映画」上映

日本が世界に誇る故・黒澤明監督の業績を長く後世に伝え、新たな才能を世に送り出すため、

世界の映画界に貢献した映画人、映画界の未来を託していきたい映画人たちを 5 人の選考委員により選考し、顕彰した。授賞式の後に、晩さん会が催された。また、「黒澤明が愛した映画」として 5 本の古今東西の名作を別途、上映した。（動員数：332 人）

［選考委員］山田洋次（映画監督）、檀ふみ（俳優）、奈良橋陽子（キャスティング・ディレクター）、川本三郎（評論家）、市山尚三（TIFF プログラミングディレクター）
＊敬称略、順不同

［受賞者］　グー・シャオガン（映画監督）、モーリー・スリヤ（映画監督）

（１６）アニメ・シンポジウム

「青年を描くアニメーション」「アニメーション表現の可能性」という 2 つのテーマについて、それぞれ上映作品の監督や評論家を招き語り合い、その模様をオンライン配信（一部はリアルでも開催。配信は一部英語版も用意）にて公開した。

［企画数］　2 企画　　［リアル動員数］ 182 人　［オンライン視聴者数］　1,225 人

（１７）上映作品の舞台挨拶のオンライン配信

上映時のリアル登壇挨拶も同時に配信・アーカイブの形を取った。従来は、映画を鑑賞した方しか見ることのできない模様を幅広く鑑賞いただくことが出来た。

［企画数］　78 企画　　［オンライン視聴者数］　61,315 人

（１８）第 36 回東京国際映画祭＠日比谷ステップ広場　屋外上映会

東京ミッドタウン日比谷 日比谷ステップ広場に高精細の LED パネルを用いた屋外上映スクリーンを設置。連日、上映会を行った。

期間：10 月 24 日（火）～ 11 月 1 日（水）

［上映作品数］　29 作品　　［動員数］　12,071 人

[共催・提携企画]

（１）TIFF/NFAJ クラシックス 小津安二郎監督週間

主催：国立映画アーカイブ／東京国際映画祭

協力：松竹株式会社／株式会社橋本ピアノ

会期：10 月 24 日（火）～10 月 29 日（日）

会場：国立映画アーカイブ 長瀬記念ホール OZU（2 階）

小津監督のサイレントからトーキー初期にかけての作品群を英語字幕付き 35mm プリントで上映。

［上映作品数］　17 作品　　［動員数］　1,736 人

（２）千代田区・第 36 回東京国際映画祭共催企画「千代田シネマセレクション」

会期：9 月 23 日（土）・24 日（日）・30 日（土）・10 月 1 日（日）

会場：ベルサール半蔵門（9/23、24）、ベルサール神田（9/30、10/1）

千代田区民が対象の上映会。過去の東京国際映画祭上映作品他から 9 作品を選定、3 作品は監

督を呼んでのQ&Aも行った。
［上映作品数］　9作品　　［動員数］1,107人

（３）交流ラウンジ会場　独自企画

①「街と映画と映画祭『PERFECT DAYS』と『怪物』ができるまで」TIFF×STORY STUDY
10月25日(水)
出席者：高崎卓馬（クリエイティブディレクター）、川村元気（フィルムメーカー／小説家）

②TIFFラウンドテーブル「映画ジャーナリズムにおける女性のまなざし」　10月26日(木)
出席者：安藤桃子（映画監督／第36回東京国際映画祭フェスティバル・ナビゲーター）、恩田泰子（読売新聞編集委員）、ナダ・アズハリ・ギロン（映画評論家／ライター）、ウェンディ・アイド（映画評論家）、セシリア・ウォン（映画評論家／キュレーター）

③『ゴジラ-1.0』トークセッション ドルビーシネマ版（Dolby Vision, Dolby Atmos）の制作について　10月27日(金)
出演者：山崎 貴（映画／脚本／VFX）、井上奈津子（音響効果）

④TIFF SDGs in Motionトーク　10月28日（土）
出演者：リューボ・ステファノス（『ハニー・ランド 永遠の谷』監督）、原田眞人（『駆け込み女と駆け出し男』監督）、アンドリアナ・ツベトコヴィッチ（SDGs プログラム・キュレーター）、キャメロン・ベイリー（トロント映画祭CEO）

（４）第１回 丸の内映画祭

主催：三菱地所
協力：一般社団法人PFF
会期：10月28日（土）～10月30日（月）
本年度の東京国際映画祭の審査委員長を務めたヴィム・ヴェンダース監督の作品特集に加え、日本映画から今泉力哉監督をフィーチャーする企画を実施。
［上映作品数］　7作品　［動員数］　540人

（５）第24回東京フィルメックス

会期：11月19日（日）～11月26日（日）
会場：有楽町朝日ホール／ヒューマントラストシネマ有楽町
コンペティション部門8作品、特別招待作品部門8作品に加え新作日本映画を紹介するメイド・イン・ジャパン部門で4作品を上映。
［上映作品数］　20作品　　［動員数］　7,048人

（６）「PFFアワード 2023」グランプリ受賞作品上映　10月26日（木）
PFFアワード2023グランプリ作品『リテイク』を上映。上映後、中野晃太監督と出演者4名

によるトークを実施。　［動員数］　104 人

（７）「SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 2023」受賞作品上映　10 月 30 日（月）

SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 2023 の国内コンペティション長編部門優秀作品賞受賞作品『地球星人（エイリアン）は空想する』を上映し、上映後に松本佳樹監督と出演者 3 名による Q&A を実施。　［動員数］　143 人

（８）日本映画監督協会新人賞、上映とシンポジウム　10 月 25 日（水）

山﨑樹一郎監督作品『やまぶき』の上映に続き、山﨑監督と井坂聡監督、いまおかしんじ監督によるトークを行った。　［動員数］　72 人

（９）日本映画監督協会シンポジウム「映適ガイドラインで現場はどう変わったか」　10 月 30 日（月）

2023 年 4 月に活動を開始した「映適」によって、制作現場はどう変化しているのかを現場スタッフらが語り合った。　会場：GLOBAL VILLAGE 有楽町ハウス　［動員数］　110 人

（１０）MPA セミナー　10 月 25 日（水）

コンテンツ産業への投資をテーマにロケ誘致、フィルム・インセンティブの取り組みを紹介。
会場：東京ミッドタウン日比谷 BASE Q　［動員数］　110 人　［オンライン視聴者数］　238 人

（１１）ケリング「ウーマン・イン・モーション」　10 月 27 日（金）

映画界における女性の活躍や働く環境の課題、未来についてのトークを実施。
会場：TOHO シネマズ日比谷
出演者：是枝裕和（映画監督）、ペ・ドゥナ（俳優）、水川あさみ（俳優）、鷲尾賀代（プロデューサー）　［動員数］　215 人

（１２）第３回みなとシネマフェスタ　11 月 25 日（土）～12 月 3 日（日）

港区内 5 地区 6 会場で開催し、障害者や未就学児との観覧など、幅広い方にお越しいただいた。
会場：赤坂区民センターほか　［上映作品数］　6 作品　［動員数］　779 人

（１３）【Kyoto Filmmakers Lab プレゼンツ】フィルムメーカーの悩み・人的ネットワークの作り方　10 月 30 日（月）

映画制作や夢を実現するために必要な人的ネットワークづくりの実例を、京都フィルムメーカーズラボの参加者に聞いた。会場：東京ミッドタウン日比谷 BASE Q　［動員数］　41 人

（１４）MPTE AWARDS 2023 第 76 回表彰式　11 月 1 日（水）

映像制作現場の技術者を表彰する日本で唯一の賞「MPTE AWARDS」各賞の授与が行われた。
会場：東京国際フォーラム ホール D5　［動員数］　120 人

（１５）映文連　国際短編映像祭　映文連アワード 2023　　11 月 27 日（月）～11 月 29 日(水)
最優秀作品（グランプリ）の『人知れず表現し続ける者たち IV』など受賞 32 作品を上映。
会場：国立新美術館講堂(表彰式)、ユーロライブ(上映会)
［上映作品数］ 51 作品　　［リアル動員数］ 500 人　［オンライン視聴者数］400 人

（１６）第 45 回ぴあフィルムフェスティバル　　9 月 9 日（土）～9 月 23 日（土）
「新しい才能の発見と育成」をテーマとする「PFF アワード」には今年全国から 557 本の応募があり、22 本の入選作を上映。　会場：国立映画アーカイブ
［上映作品数］ 60 作品　　［リアル動員数］ 4,715 人　［オンライン視聴者数］ 2,396 人

（１７）ショートショートフィルムフェスティバル ＆ アジア 2023　秋の国際短編映画祭
9 月 28 日（木）～10 月 27 日（金）
次期アカデミー賞ノミネート候補となる「SSFF ＆ ASIA 2023」受賞作品と国内外の注目ショートフィルム、韓国特集など 70 本以上を上映。
会場:オンライン/東京都写真美術館／赤坂インターシティコンファレンス ほか
［上映作品数］ 74 作品　　［リアル動員数］ 2,109 人　［オンライン視聴者数］ 3,367 人

（１８） 2023 東京・中国映画週間　　10 月 17 日（火）～10 月 24 日（火）
「2023 東京・中国映画週間」を開催し、パワーに溢れた最新中国映画をお届けした。
会場：TOHO シネマズ日本橋/有楽町朝日ホール
［上映作品数］ 13 作品　　［リアル動員数］ 3,282 人　［オンライン視聴者数］ 2,303 人

（１９）第 17 回田辺・弁慶映画祭　　11 月 10 日（金）～11 月 12 日（日）
会場：紀南文化会館
コンペティション部門作品 8 作品、招待作品 6 作品の計 14 作品を上映　［動員数］2,528 人

（２０）第 20 回ラテンビート映画祭　IN TIFF　　10 月 23 日（月）～11 月 1 日（水）
5 作品をワールド・フォーカス部門にて上映。『ストレンジ・ウェイ・オブ・ライフ』ではヴィヴィアン佐藤を迎えてトークを行った。

（２１）サヤマ de シネマ vol.7　　9 月 16 日（土）～17 日（日）
西武文理大学の学生による映画祭。第 7 回目の今年は深田晃司監督をゲストに迎え、大盛況のうちに終了。
会場：狭山市市民会館小ホール　　［上映作品数］ 4 作品　　［動員数］ 934 人

（２２）なら国際映画祭 NARAtive in TOKYO NODE ～今と未来、奈良と世界をつなぐ映画制作プロジェクト作品一挙上映～　　10 月 28 日（土）～10 月 29 日（日）
奈良で映画を制作するプロジェクト「NARAtive」から生まれた 7 作品とメイキング 1 本を上映。
［上映作品数］ 7 作品　　［動員数］ 334 人

[顕彰・助成]

① 東京国際映画祭のコンペティション部門における東京グランプリ他、優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。

② アジアの若手の優秀作品に対する顕彰（アジアの未来　作品賞）

③ 商業映画デビュー前の若い才能に対する顕彰（Amazon Prime Video テイクワン賞）

[運営]

①自主企画の実施

先述の通り

②上映会場、各種会場

日比谷・有楽町・銀座地区をメイン会場とした。

・主要上映会場：

TOHO シネマズ日比谷 SC12・13　ヒューリックホール東京、TOHO シネマズシャンテ（2 スクリーン）、角川シネマ有楽町、ヒューマントラストシネマ有楽町 Theater1、シネスイッチ銀座（2 スクリーン）、丸の内 TOEIScreen1、丸の内ピカデリーTheatre2、ベルサール神田、ベルサール半蔵門

・その他の会場：

東京ミッドタウン日比谷

日比谷三井カンファレンス：映画祭事務局、控室、プレスルーム

BASE Q：各種セミナー、ボランティア控室、弁当・ケータリング

有楽町 micro FOOD＆IDEA MARKET：交流ラウンジ会場

日比谷ステップ広場:屋外上映会場

東京宝塚劇場、帝国ホテル、丸ビルホール：各種イベント、セミナー、上映

有楽町駅前広場：チケットセンター、インフォメーションセンター等

③入場料金

○オープニング作品、クロージング作品	一般：2,600 円	学生前売・当日：2,100 円	
○コンペティション	一般：1,700 円	学生前売：1,200 円	学生当日：500 円
○アジアの未来	一般：1,700 円	学生前売：1,200 円	学生当日：500 円
○ガラ・セレクション	一般：2,000 円	学生前売：1,600 円	学生当日：500 円
○ワールド・フォーカス	一般：1,700 円	学生前売：1,200 円	学生当日：500 円
	※一部、長尺作品、及び、３D 作品については、別料金		
○NIPPON CINEMA NOW（新作）	一般：2,000 円	学生前売：1,600 円	学生当日：500 円
○NIPPON CINEMA NOW（特集）	一般：1,500 円	学生前売：1,200 円	学生当日：500 円
○アニメーション（新作・配給付き）	一般：2,000 円	学生前売：1,600 円	学生当日：500 円
○アニメーション（新作・配給なし）	一般：1,700 円	学生前売：1,200 円	学生当日：500 円

○アニメーション（旧作、準新作）	一般：1,500 円	学生前売：1,200 円	学生当日：500 円
○ユース（ティーンズ/チルドレン）	一般：1,700 円	学生前売：　500 円	学生当日：500 円
○ユース（映画教室）	一般：1,600 円	学生前売：　500 円	学生当日：500 円
○TIFF シリーズ（『平原のモーセ』）	一般：2,500 円	学生前売：2,000 円	学生当日：500 円
○TIFF シリーズ（上記以外）	一般：1,700 円	学生前売：1,200 円	学生当日：500 円
○日本映画クラシックス（「忍びの者」）	一般：1,500 円	学生前売：1,200 円	学生当日：500 円
○日本映画クラシックス（上記以外）	一般：1,700 円	学生前売：1,200 円	学生当日：500 円
○小津安二郎特集上映（「非常線の女」）	一般：2,000 円	学生前売：1,500 円	学生当日：500 円
○小津安二郎特集上映（上記以外）	一般：1,500 円	学生前売：1,200 円	学生当日：500 円
○特別上映「TOKYO POP」「JFK」	一般：2,000 円	学生前売：1,600 円	学生当日：500 円
○特別上映「ナックルガール」	一般：1,700 円	学生前売：1,200 円	学生当日：500 円
○特別上映「シュリ」「Love Letter」	一般：1,500 円	学生前売：1,200 円	学生当日：500 円
○黒澤明の愛した映画	一般：1,500 円	学生前売：1,200 円	学生当日：500 円
○Amazon Prime Video テイクワン賞	一般：1,600 円	学生前売：1,200 円	学生当日：500 円
○エシカル・フィルム賞	一般：2,000 円	学生前売：1,600 円	学生当日：500 円
○提携企画上映	一般：1,500 円	学生前売：1,200 円	学生当日：500 円

④会期中の情報発信

・有楽町駅前広場の展開

映画祭期間中、有楽町駅前広場に、インフォメーションセンター、及び、チケットセンターを設置。同時に、上映作品のポスターの掲示や LED ビジョンを設置し、映画祭に関する情報発信の場とした。

・東京ミッドタウン日比谷　地下広場の展開

映画祭期間中、同時期実施の日比谷シネマフェスティバルと共に、ミッドタウン日比谷の地下広場空間に映画作品のポスター掲示等を行い、賑やかさを演出。

・東京ミッドタウン日比谷　アトリウム

映画祭初日のレッドカーペット終了後、レッドカーペットをアトリウム内に敷き、始点の映画祭ロゴタワーを設置。また上映作品のポスターボードも新設し、レッドカーペット参加俳優のサイン入りボードも設置。

・東京ミッドタウン日比谷　日比谷ステップ広場における屋外上映の実施

自主企画（１８）を参照。

⑤ボランティア、インターン・スタッフの採用

TIFF の WEB サイト上で募集したボランティア・スタッフの方々に、上映会場での案内や事務局業務のサポートなど様々なところで活躍してもらった。また、大学や専門学校の協力のもとに学生をインターンで映画祭に参加してもらう試みも実施した。

⑥オリジナル・グッズの販売

TIFF オフィシャルグッズとして、公式プログラム、公式バッグ等を販売した。

⑦クラウドファンディング

本年度もクラウドファンディングを通じ「東京国際映画祭サポーター」を募集した。値段設定やオープニングレッドカーペット視聴の権利やオープニングセレモニーへの参加の権利等をうまく活用し、高額設定の枠は早々に売り切れるなど、大幅な参加者増及びクラウドファンディング開始後、最高額を達成する事が出来た。

[広報活動]

1．メディア登録者数

国内メディア：1,163 名　海外メディア　436 名

パス発行、プレスセンター運営、会期中のマスコミ対応はすべてバイリンガル対応を実施。

※渡航制限により海外プレスのビザサポート等渡航に関わる支援はなし。

2．国内宣伝パブリシティ

露出数：14,262（2023 年 12 月 12 日時点）

TV 媒体広告換算値：17 億 8300 万 6921 円

WEB 媒体広告換算値：98 億 9005 万 2460 円

昨年に続きオープニング時のレッドカーペットを日比谷仲通りにて開催。これがテレビを中心に爆発的な露出を生み、大きな話題となった。

3．海外宣伝パブリシティ　露出数：5,136

中国ゲストのニュースが中国メディアに多く取り上げられたことや、ヴェンダース、小津、ゴジラ等知名度の高いトピックのニュースが多かったことより、露出数はコロナ前の規模まで大幅に増加した。海外の 3 大業界誌のうちの 2 つ Variety と The Hollywood Reporter がメディアパートナーとして入り、多面的な展開を行った。

4．記者会見

〇ラインナップ発表会見 2023 年 9 月 27 日 三井カンファレンス

〇審査委員＆受賞者記者会見 2023 年 11 月 1 日 BASE Q

5.国内宣伝広告　・・・・・J-WAVE 各種番組出演・告知、LINE LIVE 企画、Filmarks 特集・バナー広告、Movie Walker 特集・バナー広告、ぴあ特集・バナー広告、ニッポン放送番組出演・ラジオ CM・バナー広告

6.海外宣伝広告　・・・・・The Wall Street Journal、Variety、Screen International、The Hollywood Reporter（紙面およびバナー広告）

7.海外プレス招聘・・・・・アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、スペイン、シリア、ニュージーランド、中国、香港、韓国、台湾、タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナムから 32 名を招聘。

8. 宣材物

予告編・・・・・・　2023 年 9 月 22 日より首都圏各劇場にて上映

メインビジュアル・・昨年に引き続きコシノジュンコ氏がデザインおよび撮影等監修

紙媒体・・・・・・　プログラム、映画祭ガイド、公式記録はすべて日英表記にて作成

9.公式 WEB、SNS の展開

SNS 展開に力を入れ、X（旧ツィッター）のフォロワー数が昨年に続き 5 万人を突破。YouTube の公式番組「TIFF チャンネル」もチャンネル登録者数が 4 万人近くになり、会期外も含めて戦略的に国内外へと発信。

＜各 SNS フォロワー数＞

X：58,827 / X(ENG):1,870　Facebook：23,658

LINE：34,218　Instagram：14,388　YouTube：39,277

10. Cyber TIFF・・ 東京国際映画祭の動画配信プロジェクト。公式 WEB 及びモバイルサイトでの動画配信を通して、TIFF の最新情報を発信するとともに、オープニング、クロージングの模様はインターネットへの配信を実施。また、撮影した素材は各マスコミに提供して東京国際映画祭の情報発信に寄与。

（東京ミッドタウン日比谷での広報活動）

会期初日の 10 月 23 日（月）より最終日の 11 月 1 日（水）まで、東京ミッドタウン日比谷の屋外大型 LED ビジョン裏面をはじめ華やかでインパクトのある映画祭ビジュアルで装飾し、会場の賑わいを演出した。同様のビジュアルを館内のデジタルサイネージで展開した。また館内地下通路では数多くの作品ポスターを掲出した。

（銀座・日比谷・有楽町地区での広報活動）

各所のデジタルサイネージにおいて、映画祭のビジュアルとともに作品情報、イベント情報などを発信した。また同様のビジュアルを街頭フラッグで展開し、映画祭の賑わいを演出した。

① ミッドタウン日比谷正面入口ビジョン
② ミッドタウン日比谷館内ビジョン
③ 日比谷ゲートビジョン
④ 都営ステーションビジョン日比谷
⑤ 地下鉄連絡エスカレーター上部コルトン
⑥ 日比谷仲通りフラッグ
⑦ 丸の内ビジョン
⑧ JR 有楽町駅前広場特設ビジョン、作品ポスターボード
⑨ ミッドタウン日比谷アトリウム作品ポスターボード

（東京メトロでの広報活動）

東京メトロのご協力のもと、早いところで、10 月 2 日～映画祭最終日まで、地下鉄内の車内広告をはじめ、映画祭実施地区周辺でのビジュアル展開、開催告知を行った。

① 東京メトロ全線車内窓上部広告
② 地下鉄構内 MCV ビジョン（大手町駅メインに主要駅）
③ 駅張ポスター（14 駅 36 枚）
④ 駅張ポスター大手町プレミアム（4 面）
⑤ 駅張ポスタープレミアム（有楽町駅・日比谷駅）

（東京都交通媒体での広報活動）

東京都交通局のご協力のもと、10 月 2 日から 11 月 3 日までの長期間に渡り、都営地下鉄および都営バスと映画祭とのタイアップキャンペーンの告知を行った。

① 都営地下鉄全駅　構内ポスター掲出
② 都営地下鉄　中吊り掲出
③ 都バス窓上広告掲出
④ 車内「チカッ都ビジョン」による映画祭 CM 上映

２．TIFFCOM 事業

名　　称:　**TIFFCOM 2023**
主　　催:　経済産業省／総務省／公益財団法人ユニジャパン
期　　間:　2023 年 10 月 25 日(水)～10 月 27 日(金)、3 日間
企　　画:　映画・テレビ・アニメーションマーケット
　　原作・IP マーケット／企画・共同製作マーケット／セミナー
会　　場:　東京都立産業貿易センター浜松町館
共　　催:　第 36 回東京国際映画祭
後　　援:　一般社団法人映画産業団体連合会
　　一般社団法人外国映画輸入配給協会
　　一般社団法人コンピュータエンターテインメント協会
　　一般財団法人デジタルコンテンツ協会
　　協同組合日本映画製作者協会
　　一般社団法人日本映画製作者連盟
　　一般社団法人日本映像ソフト協会
　　一般社団法人日本経済団体連合会
　　一般社団法人日本動画協会
　　独立行政法人日本貿易振興機構
　　一般社団法人日本民間放送連盟
　　［五十音順］

■　**結果概要**

TIFFCOM2023 は、映画、TV、アニメーションのすべてのコンテンツがそろうアジア随一の国際マーケットとして、会場を新設の浜松町に移し 4 年ぶりのフィジカル開催となり国内外から 349 件の出展、約 4000 人規模の参加があった。参加者のうち 35.7%が海外からの参加となっている。

＜実績＞

参加国・地域	52 か国
出展団体	349　（前年比＋22）

日本 116、中国 64、台湾 56、韓国 26、カンボジア 20　等
※初出展　モンゴル

総参加者　3,851 人　うち海外　1,375 人（35.7%）
ビジター　929 人　うち海外　603 人（64.9%）
日本 326、韓国 105、中国 82、台湾 61、USA58、香港 52　等

・参加者業種　配給　27.7%、制作・製作 18.6%、放送 9.9%、配信 8.0%他
・参加目的　購入 60.3%、共同制作・製作　19.8%
・参加者の取扱いコンテンツ　映画 23.5%、TV アニメーション 19.1%
TV 実写 17.4%、映画アニメーション 15.0%

・出展者業種　制作・製作 31.7%、配給　17.5%、放送 12.7%、セールス 8.9%
・出展者のセールス以外の活動　国際共同製作 46.1%、
ローカライズ　18.0%、IP セールス 16.9%

参加目的が多様になり、売買に加えて共同制作の情報取得、ネットワーキングなどが重要になってきている。参加者のプロフィールもセールス、アクイジションに加えて製作者、プロデューサーが増えている。

＜重点施策＞

IP マーケット新設　Tokyo Story Market

世界的な配信コンテンツのニーズ増を背景に、売買のみならず企画、IP を求める動きが増えていることを受けて、TIFFCOM にも原作 IP を扱う Tokyo Story Market を新設し、出版大手 4 社の参加により注目を集めた。16 カ国・地域より 37 名のプロデューサーが参加し、89 件のミーティングを実施した。

企画マーケット強化 Tokyo Gap Financing Market

また、オンライン時にスタートした成立確度の高い長編企画を扱う Tokyo Gap Financing Market は初のフィジカル開催となり、15 企画（実写 11、アニメ 4）を選出、25 カ国・地域から 88 名のインベスターが参加、375 件のミーティングを実施した。

セミナー

計 7 枠を設け、日本のアニメーション大手の海外戦略やテレビ局の企業戦略発表会など、日本のコンテンツ業界の最新情報が大きな注目を集めた。また中国、タイ、イタリアのプレゼンテーションでは各国の映像業界のトレンドや注目企業の紹介が行われ盛会となった。

1. China Japan Audio-Visual Industry Cooperation Dialogue

中国・日本映像産業における協力に関するフォーラム
主催:上海市広播影視制作業行協会 後援:特定非営利活動法人 映像産業振興機構

2. Beyond Borders: Exploring the Global Appeal and Diversity of Thailand's Boys' Love Contents 境界線を越えて ~タイ BL コンテンツの普遍的な魅力と多様性~
主催:タイ国大使館商務参事官事務所

3. About TOEI ANIMATION's overseas strategy
東映アニメーションの海外戦略について
主催:東映アニメーション株式会社

4. The truth behind the overseas expansion of "Suzume": the relationship and possibilities between the production company and the distribution company
「すずめの戸締まり」における海外展開 : 製作会社と配給会社の関係性と可能性について
主催:一般社団法人日本動画協会

5. Fuji Television Global Vision 2023
フジテレビグローバル事業戦略発表会
主催:株式会社フジテレビジョン

6. Spotlight on Italy
Spotlight on Italy
主催:イタリア文化省映画オーディオビジュアル局 チネチッタ / 経済産業省

7. MPA DHU TIFFCOM Master Class Seminar & Pitching Contest 2023
MPA DHU TIFFCOM マスタークラスセミナー&ピッチングコンテスト 2023
共催:モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)、DHU(デジタルハリウッド大学)、TIFFCOM

３．国際支援事業

【 国際展開支援 】

（１）海外の国際映画祭・映画賞への出品支援（文化庁の委託事業）

海外映画祭に参加する日本映画の出品経費、映画製作者の渡航経費等を支援する。長編映画から短編映画、著名監督作品から新人監督・学生作品まで、アニメーション、ドキュメンタリー映画を含めて、海外の映画祭から招待されたあらゆる日本映画を支援対象としている。

■　令和５年度支援実績

１．支援内容と支援件数

(A) 支援対象映画祭公式部門出品への支援	申請件数　50	採択件数　39
(B) 3 大映画祭長編メインコンペティション部門出品への支援	申請件数　2	採択件数　2
(C) 支援対象映画祭映画祭公式部門出品への支援(個人からの申請)	申請件数　12	採択件数　12

(D) クラシック(デジタルリマスター３大映画祭出品時字幕制作) 申請件数 3　採択件数　3
２．選考

(A) 前期、中期、後期に分け、それぞれ選考委員会を開催し支援作品の選考を行った。

・前期（5 月～7 月）　申請件数　21　採択件数　19
・中期（8 月～11 月）　申請件数　34　採択件数　25
・後期（12 月～3 月）　申請件数　12　採択件数　12

(B) 選考委員会のメンバーは以下の 5 名に委嘱した。

・坂野 ゆか（川喜多記念映画文化財団常務理事）・
・新藤 次郎（日本映画製作者協会代表理事）
・星野 哲（日本映画製作者連盟事務局長）
・石飛 徳樹（朝日新聞社編集委員）
・林 加奈子（元 TOKYO FILMeX ディレクター）

（２）日本映画・映像コンテンツの海外発信支援（文化庁の委託事業）

■　主要映画見本市への「ジャパンブース」出展

海外の主要映画祭に日本映画の海外広報・セールス拠点「ジャパンブース」を出展、日本映画の情報発信拠点とする他、ブーススペースを日本映画の海外販売を行う事業者に提供、日本映画の輸出や共同製作等の海外展開活動を支援している。

出展した映画祭

(A) カンヌ国際映画祭　（開催日程　5 月 16 日～27 日）　公式出品作品　7 本
同マーケット　（開催日程　5 月 16 日～24 日）

(B) アヌシー国際アニメーション映画祭（開催日程　6 月 11 日～17 日）公式出品作品　18 本
同マーケット　（開催日程　6 月 13 日～16 日）

(C) ベルリン国際映画祭　（開催日程　2 月 15 日～25 日）　公式出品作品　7 本
同マーケット　（開催日程　2 月 15 日～21 日）

ジャパンブースの設置のほかに、若手日本人監督のプロモーションと交流を目的とした「日本人新人監督海外プロモーション」を実施した。期間中、業界誌 Screen International への日本映画の特集記事や「日本人新人監督海外プロモーション」参加監督の紹介記事の掲載を行った。

（３） 国際共同製作支援（経済産業省の委託事業）

■　二国間協定における取扱機関としての事務局業務

弊財団は日中および日伊映画共同製作協定の取扱機関として指定を受けており、申請の受付および書類審査を行い、所管当局である外務省、経産省、文化庁による認定の事務局となる。

の「国際共同製作への支援」との合同説明会を実施、認定申請の書類審査を継続して行った。今年度は該当する完成作品はなかった。

① 応募要項、応募様式の作成

② 申請予定者向けの説明会開催概要

「日中映画共同製作認定／国際共同製作映画支援　合同説明会」

日時：令和５年 11 月 29 日（木）　15：00～16：30

開催方法：オンライン会議システム

参加者：　　54 人

参加省庁：経済産業省、文化庁

【 情報発信 】

（１）海外向け日本映画データベース・Japanese Film Database(JFDB)の運営（国際交流基金との共同事業）

主に 21 世紀の日本映画に関して、公式日英バイリンガルのオンラインデータベースの運営を継続的に行っている。令和５年には日本国内で 1 週間以上劇場公開された作品を中心に、約 200 本を新規掲載し、JFDB アーカイブと題した一部のクラシック作品も含め、現在合計で約 6,800 作品以上のデータを収めている。海外販売をサポートするため映画マーケットでのセールス作品に特化したページ”Market Look”や、年間の特筆すべき作品を特集したページも掲載している。

（２）海外向け日本映画・アニメ年鑑「Japanese Film」の発行と配布（文化庁の委託事業）

海外における日本映画の上映促進を目的とし、主要映画祭・映像見本市にて配布するべく、令和４年に劇場公開された代表的な日本映画・劇場版アニメの紹介と、日本映画産業統計、日本映画概況を掲載した小冊子を作成した。

■　Japanese Film 2024 の概要

① 配布数：　1,200 部（冊子）及びデジタル版

② 配布先：　カンヌ、アヌシー、TIFFCOM（東京）、ベルリン、トロント、香港の各映画祭、見本市開催時に配布の他、日本政府在外公館、国際交流基金海外事務所、駐日外国公館に送付

③ 掲載作品：　選考委員会により 80 作品を選出し、日本語・英語併記で紹介

④ 日本映画産業統計：　一般社団法人日本映画製作者連盟より協力を得て各種統計情報を掲載

【 人材育成 】

「第 44 回 PFF」の共催（川喜多記念映画文化財団の補助事業）

公益財団法人川喜多記念映画文化財団の指定寄付を受けて、「第 45 回ぴあフィルムフェスティバル（PFF）」に共同主催として参画した。

■開催概要

・会期：2023 年 9 月 9 日（土）～23 日（土）

・会場：国立映画アーカイブ

・主催：一般社団法人 PFF、独立行政法人国立美術館 国立映画アーカイブ、
公益財団法人川喜多記念映画文化財団、公益財団法人ユニジャパン

■最終審査員

石井裕也（映画監督）、石川 慶（映画監督）、岸田 奈美（作家）、國實瑞惠（プロデューサー）、五月女ケイ子（イラストレーター）

■受賞結果

グランプリ	『リテイク』監督：中野晃太
準グランプリ	『ふれる』監督：髙田恭輔
審査員特別賞	『うらぼんえ』監督：寺西 涼
	『鳥籠』監督：立花 遼
	『リバーシブル／リバーシブル』監督：石田忍道
エンタテインメント賞（ホリプロ賞）	『完璧な若い女性』監督：渡邉龍平
映画ファン賞（ぴあニスト賞）	『じゃ、また。』監督：石川泰地
観客賞	『移動する記憶装置展』監督：たかはしそうた

■東京国際映画祭での特別提携企画

・PFF アワード 2023　受賞作品上映